

令和2年度 盛岡市子ども未来基金助成事業活動報告書

事業名	不登校の相談と学習支援活動
事業者名	NPO法人岩手県青少年自立支援センター 「ポランの広場」
事業の目的 (事業を実施しようと思ったきっかけなど)	ポランの広場は、いじめを受けていたり、授業についていけなかったりなど様々な理由で不登校になっている小中高生とその親たちの相談にのっている。相談の中で、学校に行けないでいる子どもたちの多くは学校の勉強をとてき気にして、その子なりに学びたいという願いが隠されていることに気づかされる。さらに、不登校の子が家にひきこもってしまわないためには、日中安心して過ごせて他の人と交流できる学校以外の居場所が求められていると感じている。そこで、本事業では、不登校の親子の相談を受けるとともに、不登校の子どもたちの居場所と学びの場を提供することを目的とした。
事業の実績 (日時・場所、参加者、内容、参加者の様子など)	1 相談活動 毎週 火、金、土曜日 10時～16時 ポランの広場をひらき、来所された方の面談および電話による相談を受けた。 6月：7件(小学生2、中学生1、高校生2、18歳2) 7月：10件(高校生1、その他9) 8月：1件(中学生1、高校生1、中卒1、その他6) 9月：12件(小学生2、中学生2、高校生1、その他7) 10月：7件(小学生1、中学生2、高校生2、その他2) この期間は「先生が怖い」という小学1年生の不登校の子の訴えがあったりして、コロナ禍の下での緊張度の高い学校生活になっていると想像された。このまま学校に行けない状態にしてはならないと考えながら対応している。学校も焦らないでゆっくりペースで進めてほしい。中学生、高校生にはいじめにより行けなくなっている相談が目についた。 2 学びの場ー学習支援とパソコンを学ぼう！ 10月から土曜日の午前10時30分から1時間、県立大学と岩手大学の学生を学習支援員として学びの場を設けた。また従来からの毎月1回土曜日の午後のパソコン教室は、ホームページやポランの広場通信あるいは面談の際に声をかけて誘っているが、まだ定期的な利用者はいない。学校に行けなくなっている子どもたちなので、ポランに来るのが難しいと思う。工夫が必要と考えている。 3 絵本の読み聞かせと読み手の体験 毎月1回第2火曜日午後に「絵本の読み聞かせ」を実施した。参加者は4名程度で続けている。小学生が母親と一緒に聞きに来ることもある。一方、6月と9月に、わっこの家青山で行う予定だった「読み聞かせ体験」は、読み手の青年2人のうち1人が参加できなくなったため、実施できなかった。 4 保護者の交流会 毎月、第3木曜日(さくらんぼの会)と第3日曜日(茶話会)午後1時半から父母の交流会をひらいた。参加者はさくらんぼの会は7～8名で子どもの不登校について話し合っている。茶話会は5～6名の参加者で、子どもの不登校だけでなく、ひきこもりについても話題になっている。それぞれ保護者が率直な気持ちを語り合っている。 5 講演会開催 7月24日(金、祝日)13時～14時30分、アイーナ6階団体活動室3において成田礎野美さん(認定NPO法人アコモン 理事長)を講師に、「発達障害の理解と支援について」の学習会を実施した。参加者は20名で市内だけでなく遠野市や岩手町からの参加もあった。子どもの発達障害で悩んでいる親たちで、講演後、たくさんの質問が出され、悩みが深く子どもたちへの対応が困難であることが窺われた。
その他 (課題、今後の予定など)	学びの場への利用者を増やすことが今後の課題と考えている。もともと、不登校の子どもたちは学校へ行っていないという自己否定の気持ちが強くエネルギーを失くしているので安心して楽しく過ごせる居場所となることが大切である。時間帯や会場なども含めて、楽しいことをしながら勉強に向かえる工夫をしていきたい。